「森銑三刈谷の会」だより　No. 1（創刊号）

例会日　第3土曜日 14：00～16：00（原則）
会場　刈谷市中央図書館 視聴覚室　参加自由

発行　2021年10月16日（月刊予定・投稿歓迎）
共同代表 神谷磨利子・鈴木　哲 tetsu_s@katch.ne.jp

「森銑三刈谷の会」発足（2021.9.11）

森銑三（1895-1985）は刈谷を故郷とする近世学芸史研究家、書誌学者として知られています。1916年（大正5）6月から刈谷町立図書館に雇われ、約1年9か月で、宍戸俊治・藤井清七から寄託された村上忠順の旧蔵書25,000余冊を分類し、「村上文庫目録」を編集した人として、全国的に知名度の高い人です。『赤い鳥』の作家・編集記者として知られる十五歳下の弟・森三郎に大きな影響を与えたことでも知られています。

刈谷市中央図書館には、森銑三の著書がたくさん並んでいます。「森銑三刈谷の会」では実際に森銑三の著作を読み、森銑三の人柄・生き方・師と友・業績等について調べてみたいと思います。刈谷との関連という視点からも人・本とのつながりが広がることでしょう。　（神谷）

発足の日9月11日は銑三誕生日

森銑三の最初の著作『近世文藝史研究』は「四十の賀」を記念して1934年に刊行されました。傘寿の年には銑三が世話役をしていた三古会から『近世の學藝―史伝と考証―』（1976）が発刊されました。米寿の祝いには日本古書通信社の八木福次郎社長が『明治大正の新聞から』（1982）を豆本にしてお祝い出版してくれました。喜寿の祝いの一日のことを記した随筆「九月十一日」（1971）には、日比谷図書館の杉捷夫館長等から御馳走になったこと、奥様からウイスキーとお赤飯のお祝いがあったことが描かれています。仕事の仲間との楽しい話や笑い声が聞こえてきそうな文章です。

「森銑三刈谷の会」もこの日を記念して踏み出した一歩を、ゆっくり長く進めて行きたいと思います。　（神谷）

1917年6月21日刈谷町立刈谷図書館前の森銑三（1895-1985）［部分］。森は21歳で村上忠順（ただまさ）蔵書約2万5千冊を整理し、「村上文庫目録」としてまとめた。（刈谷市中央図書館ホームページ「村上文庫と図書館の創設」から転載）

森銑三研究序説―森銑三著作と森銑三関連文献

2021月9月11日、刈谷市中央図書館で開催の「森銑三刈谷の会」には22人参加を得た。神谷磨利子さんが「森銑三・人のつながり本の広がり―略年譜（刈谷市教育委員会）を軸として―」を、私（鈴木）が「森銑三研究序説―森銑三著作と森銑三関連文献」を発表し、会の発足とした。文献表には銑三に関わる著作100余点をまとめた。

市中央図書館郷土・参考室には3種の『森銑三著作集』がある。正編12巻＋別巻（1970-72；71-74）、同普及版（1973-74；88-89）、続編16巻＋別巻（1992-95）である。正編は刈谷市への銑三寄贈、普及版は市民寄贈で、続編刊行は銑三没後である。

銑三を知るには森(1990)『思い出すことども』中公文庫が優れ、「資料焼失」と「八十歳を迎える」が感銘深い。森田誠吾(1998)『明治人ものがたり』岩波新書の目次に森銑三はないが、中葉「学歴のない学歴」は銑三伝である。『思い出す―』は森(1977)『松本奎堂』中公文庫、内田百閒(1983)『東海道刈谷駅』旺文社文庫と並ぶ刈谷3文庫である。

刈谷ホームニュースが予定記事(2021/8/27:7)と当日記事(2021/9/24:3)を書いてくださった。同紙1984/8/4, 86/10/4, 95/10/7, 2016/8/6に森銑三があるという。気軽に話し合える会にしたいと思う。

（鈴木　哲）

次回例会　2021年11月20日（土）14：00～16：00